

2025年3月期 第2四半期 クリモトグループ決算説明資料

Challenge to change.

KURIMOTO

おかげさまで

115TH
ANNIVERSARY

目次

- 1. 2025年3月期 第2四半期実績**
- 2. 2025年3月期 通期業績予想**
- 3. トピックス**

参考資料

1. 2025年3月期 第2四半期実績

1 - 1 決算概要

<連結>

(単位：百万円)

	2024.3 2Q 実績 (A)		2025.3 2Q 実績 (B)		前年比 (B-A)	2025.3 2Q期初予想 (2024.5.14公表)	
売上高	59,951	-	58,911	-	▲1,039	60,000	-
営業利益 (率)	3,693	(6.2%)	2,967	(5.0%)	▲725	2,500	(4.2%)
経常利益 (率)	4,032	(6.7%)	3,192	(5.4%)	▲840	2,600	(4.3%)
中間純利益 (率)	2,883	(4.8%)	2,502	(4.2%)	▲381	2,000	(3.3%)

売上高

2024.3
2Q
59,951

ライフ
ライン
▲1,738

機械
システム
+713

産業
建設資材
▲14

2025.3
2Q
58,911

営業利益

2024.3
2Q
3,693

減収による
粗利減
▲259

粗利率の
上昇
+329

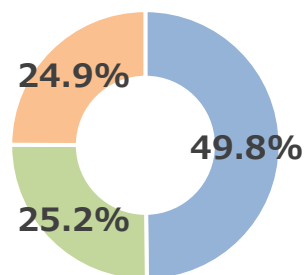
販管費
の増加
▲795

2025.3
2Q
2,967

1 - 2 セグメント別業績

		2024.3 2Q実績 (A)	2025.3 2Q実績 (B)	前年比 (B-A)
ライフライン	売上高	31,093	29,354	▲1,738
	営業利益	2,428	1,859	▲568
	(率)	(7.8%)	(6.3%)	(▲1.5pts)
機械システム	売上高	14,155	14,868	713
	営業利益	617	930	312
	(率)	(4.4%)	(6.3%)	(1.9pts)
産業建設資材	売上高	14,702	14,687	▲14
	営業利益	768	286	▲482
	(率)	(5.2%)	(1.9%)	(▲3.3pts)

売上高構成割合



※営業利益合計額は調整額を含んでいるため、セグメント利益の合算値とは合致しません。

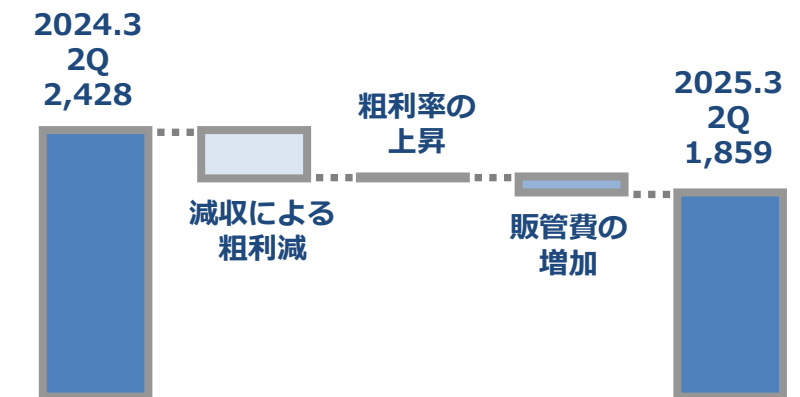
1 - 3 事業セグメント別概況

ライフラインセグメント

(単位：百万円)

	2024.3 2Q 実績 (A)	2025.3 2Q 実績 (B)	前年比 (B-A)	2025.3 期初予想値 (2024.5.14公表)
売上高	31,093	29,354	▲1,738	62,000
営業利益	2,428	1,859	▲568	4,400
(率)	(7.8%)	(6.3%)	(▲1.5pts)	(7.1%)

営業利益増減内訳 (連結)



事業セグメント別売上高・営業利益

売上高

バルブ部門にて電力・鉄鋼関連向け製品が好調に推移するも、パイプシステム部門においてグループ会社の減収影響等により前年度比1,738百万円の減収

営業利益

減収影響や販売管理費の増加等により前年度比568百万円の減益

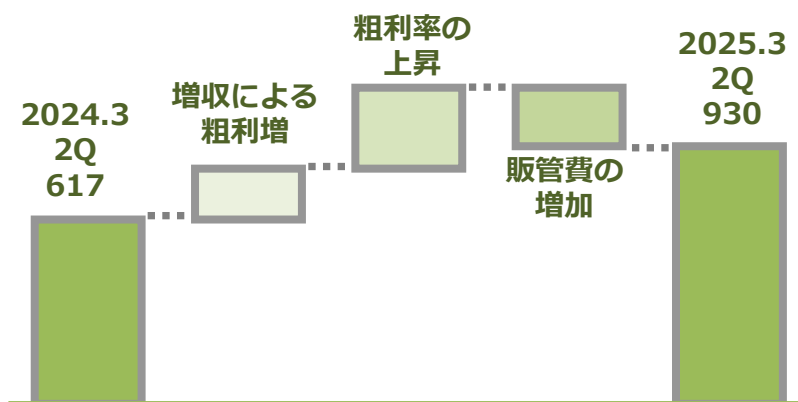
1 - 4 事業セグメント別概況

機械システムセグメント

(単位：百万円)

	2024.3 2Q 実績 (A)	2025.3 2Q 実績 (B)	前年比 (B-A)	2025.3 期初予想値 (2024.5.14公表)
売上高	14,155	14,868	713	30,500
営業利益	617	930	312	1,400
(率)	(4.4%)	(6.3%)	(1.9pts)	(4.6%)

営業利益増減内訳 (連結)



事業セグメント別売上高・営業利益

売上高

機械部門においてプレス機器販売、プラント案件等が好調であったことに加え、素形材部門でM&Aを実施した影響等により前年比713百万円の増収

営業利益

販売管理費の増加があったものの、増収影響や粗利率の改善等により前年同期比312百万円の増益

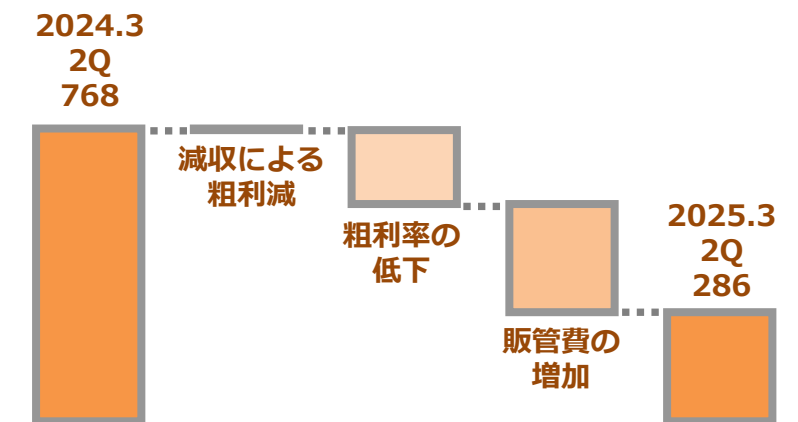
1 - 5 事業セグメント別概況

産業建設資材セグメント

(単位：百万円)

	2024.3 2Q 実績 (A)	2025.3 2Q 実績 (B)	前年比 (B-A)	2025.3 期初予想値 (2024.5.14公表)
売上高	14,702	14,687	▲14	31,500
営業利益	768	286	▲482	1,900
(率)	(5.2%)	(1.9%)	(▲3.3pts)	(6.0%)

営業利益増減内訳 (連結)



事業セグメント別売上高・営業利益

売上高

化成品部門にて電力・通信分野の出荷が順調に進んだ一方で、建材部門のグループ会社において出荷延期が発生した影響等により前年比14百万円の減収

営業利益

工事案件にて追加工事が発生したこと等により前年比482百万円の減益

2. 2025年3月期 通期業績予想

2 - 1 2025年3月期 通期業績予想

<連結>

(単位：百万円)

	2024.3 実績		2025.3 予想		前年比 (B - A)
	(A)		(B) (2024.5.14公表) (2024.11.1修正)		
売上高	125,925	-	124,000	-	▲1,925
営業利益 (率)	7,460	(5.9%)	7,000	(5.6%)	▲460
経常利益 (率)	7,816	(4.5%)	7,200	(5.8%)	▲616
当期純利益 (率)	5,470	(3.3%)	↑5,500	(4.4%)	30
ROE	-	(7.1%)	-	(7.0%以上)	-

前年度は売上高の前倒しや利益率の高い製品が好調に推移したこともあり、今年度は減収および営業利益、経常利益の減益を見込むも、特別利益の計上等により当期純利益は増益を見込む。

2-2 セグメント別業績

		2024.3 実績 (A)	2025.3 予想 (B)	前年比 (B-A)
ライフライン	売上高	64,439	62,000	▲2,439
	営業利益	4,494	4,400	▲94
	(率)	(7.0%)	(7.1%)	(0.1pts)
機械システム	売上高	29,144	30,500	1,356
	営業利益	1,491	1,400	▲91
	(率)	(5.1%)	(4.6%)	(▲0.5pts)
産業建設資材	売上高	32,340	31,500	▲840
	営業利益	2,255	1,900	▲355
	(率)	(7.0%)	(6.0%)	(▲1.0pts)

ライフラインセグメント

潜在需要はあるものの、物価上昇による市場の購買力低下により減収減益の見込み

機械システムセグメント

投資の手控えからの回復が期待できることやM&A等により増収を見込むも、原材料・エネルギー・輸送コストの高騰等により減益の見込み

産業建設資材セグメント

建設投資の戻りの遅れや、原材料コストなどの高騰により減収減益の見込み

※営業利益合計額は調整額を含んでいるため、セグメント利益の合算値とは合致しません。

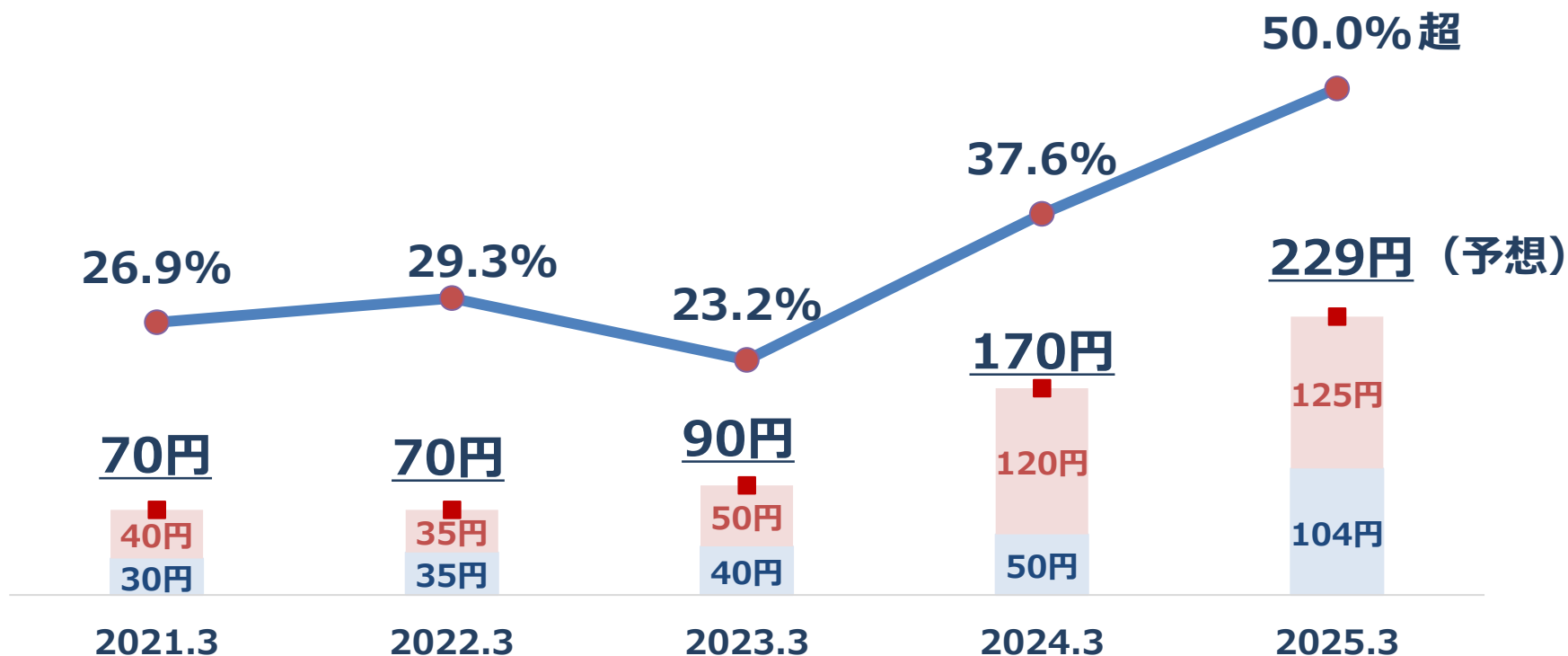
3. トピックス

3 - 1 株主還元

期末配当額を**21円増額**し年間配当額を**229円**に修正

一株あたり配当額・配当性向推移(連結)

■ 期末配当額 (円) ■ 中間配当額 (円) ■ 年間配当総額 (円) ● 年間配当性向 (%)



3 - 2 CO2排出量削減と生産合理化への設備投資

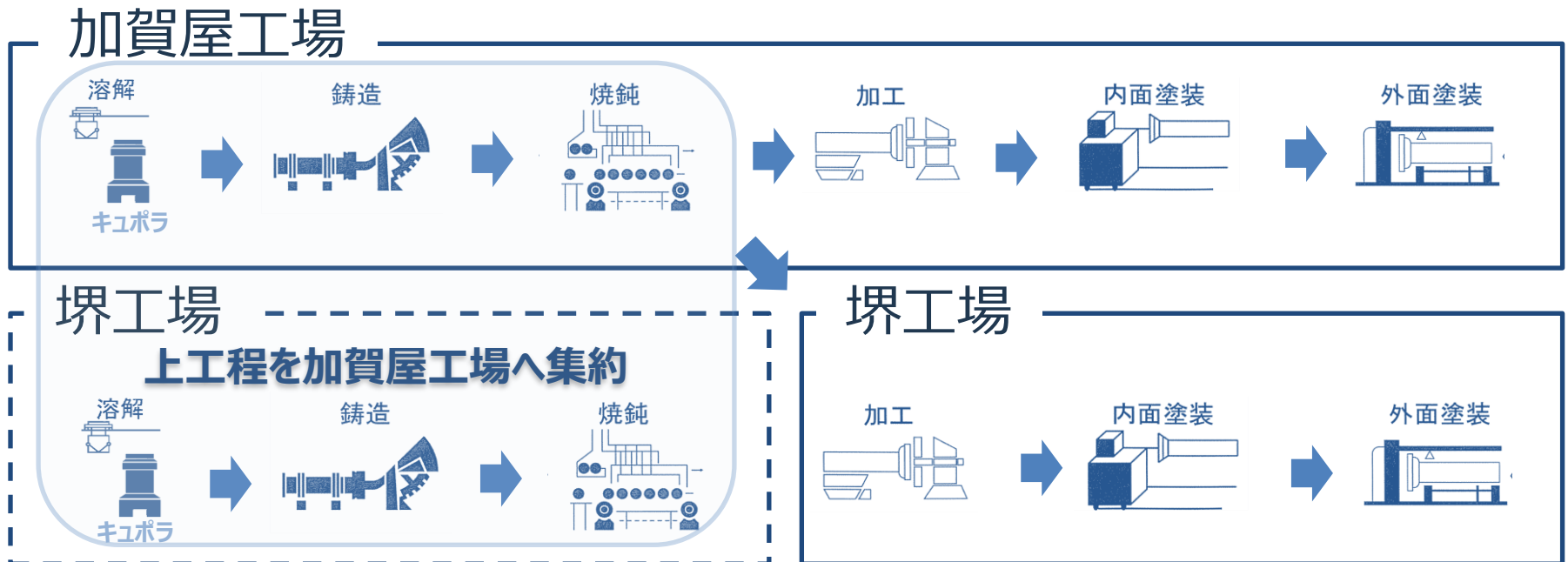
ライフラインセグメント

堺工場の製造工程の一部を加賀屋工場へ集約(2026年度に稼働予定)

▶ キュポラ[※]を1基体制とすることで**14%**のCO2削減効果

※ コークスの燃烧熱を利用して鉄を溶かすための装置

▶ 製造設備の集約や人員の最適配置により更なる生産の効率化



3 - 3 道路インフラの新リニューアル工法

産業建設資材セグメント

特許出願中

破損した円筒型枠※のスピーディーかつ柔軟な補修工法を開発

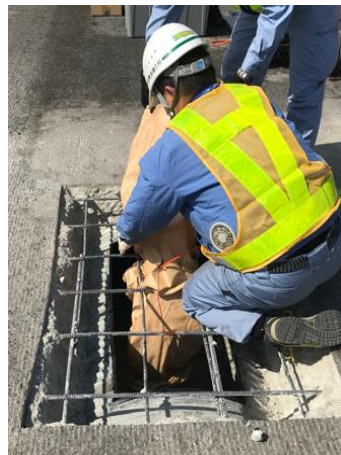
※ 薄肉鋼板を成型した鋼管。高速道路や橋梁のコンクリートの使用量を減らし軽量化を図る目的で使用されている。

- ▶ 円筒形チューブを型枠内に膨らませることで床版内の中空部を再形成
- ▶ 一般的なコンプレッサーで空気注入することができ、特別な機材の持ち込みは不要

1. 事前準備



2. エアータブ挿入



3. エア注入



4. 設置完了



参考資料

参考資料 1 会社概要 (2024年3月末時点)

所在地：
大阪府大阪市西区北堀江1丁目12番19号

創立：
1909年2月2日（明治42年）

設立：
1934年5月10日（昭和9年）

主要事業領域：
社会インフラ事業、産業設備事業

代表者：
代表取締役社長 菊本 一高

資本金：
311億円（2024年3月末時点）

従業員数：
連結 2,121名（2024年3月末時点）
単体 1,316名（2024年3月末時点）

グループ企業：
国内外22社で構成

参考資料 2 会社概要 (2024年3月末時点)

事業所：

○工場・物流拠点 (計 13 か所)

大阪府内 4 か所

滋賀県、茨城県など

○国内営業拠点 (8 か所)

大阪、東京、札幌、仙台、

名古屋、広島、福岡、沖縄

○海外拠点 (2 か所)

ヨーロッパ事務所 (ドイツ)、

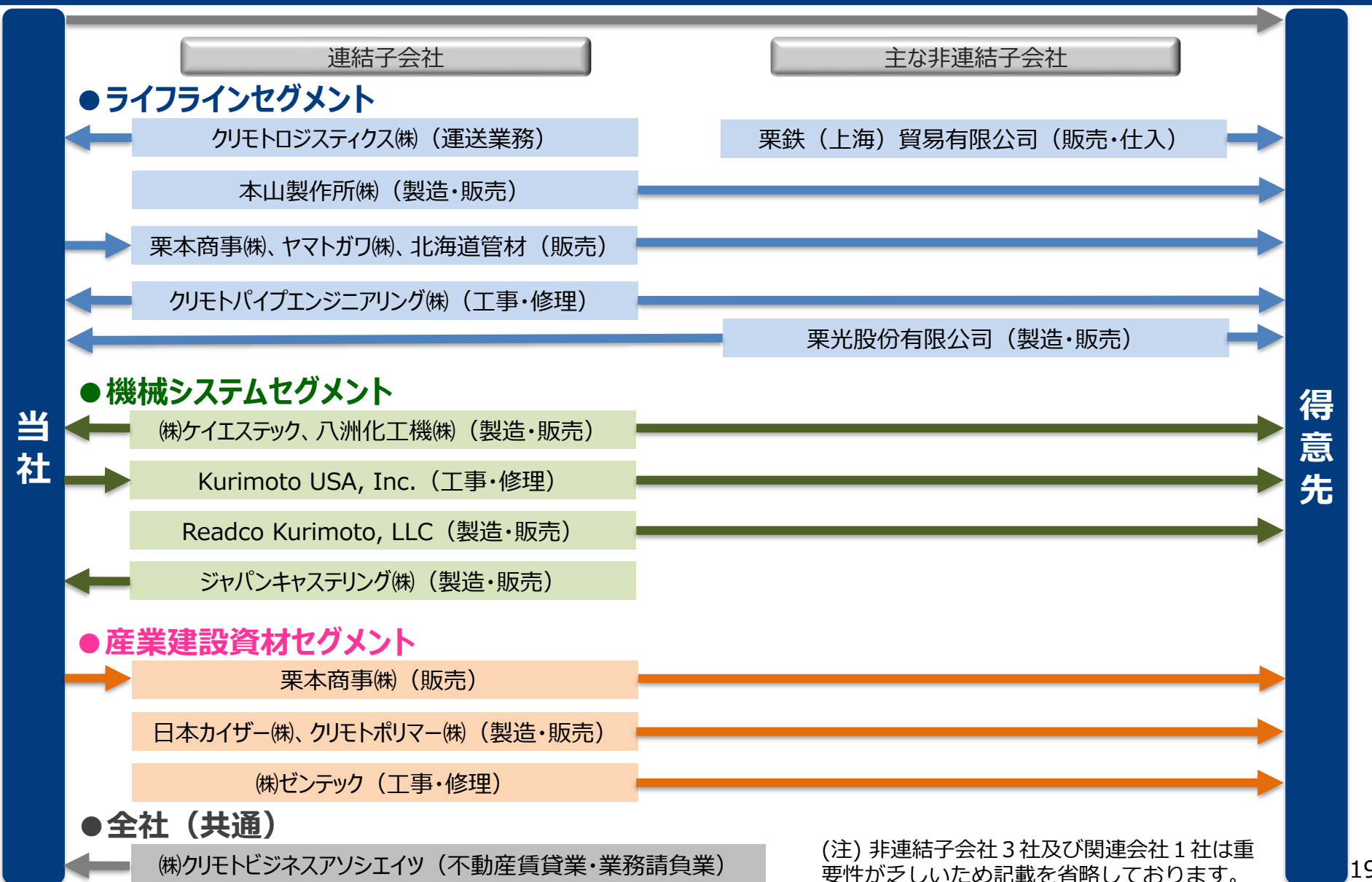
ジャカルタ事務所 (インドネシア)



関係会社：

栗本商事(株)、ヤマトガワ(株)、(株)本山製作所、(株)ケイエステック、
 ジャパンキャストリング(株)、Readco Kurimoto、Kurimoto USA<米国>、
 栗鉄(上海)貿易有限公司<中国>など 計22社

参考資料 3 関係会社 (2024年3月末時点)



参考資料 4 経営理念/ありたい姿

経営理念

私たちは、全てのステークホルダーの期待と信頼に応え、常に最適なシステムを提供し、『夢ある未来』を創造します。

～社会インフラ・産業インフラへの最適なシステムの提供～

ありたい姿

「売り手よし」「買い手よし」「世間よし」の「三方よし」に、「未来もよし」を加えた「四方よし」の精神で、将来にわたって社会へ貢献できる企業グループを目指す

参考資料5 事業ドメイン

社会 インフラ

上下水道、道路、通信、交通など
人・生活において基盤となる施設



メーカーの生産活動に必要な
機械、プラントなどの製造設備



産業設備

参考資料 6 事業部門の構成と主な製品①

事業セグメント	主な事業ドメイン	事業部	主な製品	主な需要先
ライフラインセグメント		パイプシステム	ダクタイル鉄管類	水道事業者
		バルブシステム	水道用バルブ、産業バルブ	水道事業者、製鉄・電力等各種プラント、ポンプメーカー
機械システムセグメント		機械システム	鍛造プレス	自動車関連メーカー
			粉体処理機	カーボン、エンブラ、二次電池関連メーカー 他
		プラントエンジニアリング	プラントエンジニアリング企業	
		素形材エンジニアリング	耐磨耗鋳物、破碎機 鉄鋼、セメント、電力、環境、砕石関連企業	
産業建設資材セグメント		建材	建築資材	管材商社、空調設備業者、ゼネコン等
		化成品	FRP(M)製品	国・地方公共団体、電力会社、ゼネコン、フィルム関連メーカー

参考資料 7 事業部門の構成と主な製品②

◆ 社会インフラと産業設備事業の構成、官需/民需のバランスが良く、好不況の波に強い事業基盤を持つ

社会インフラ = 安定性

上下水道、道路、通信、交通など
人・生活において基盤となる施設。

売上比率

約50%

売上比率

約50%

産業設備 = 成長性

メーカーの生産活動に必要な
機械、プラントなどの製造設備。

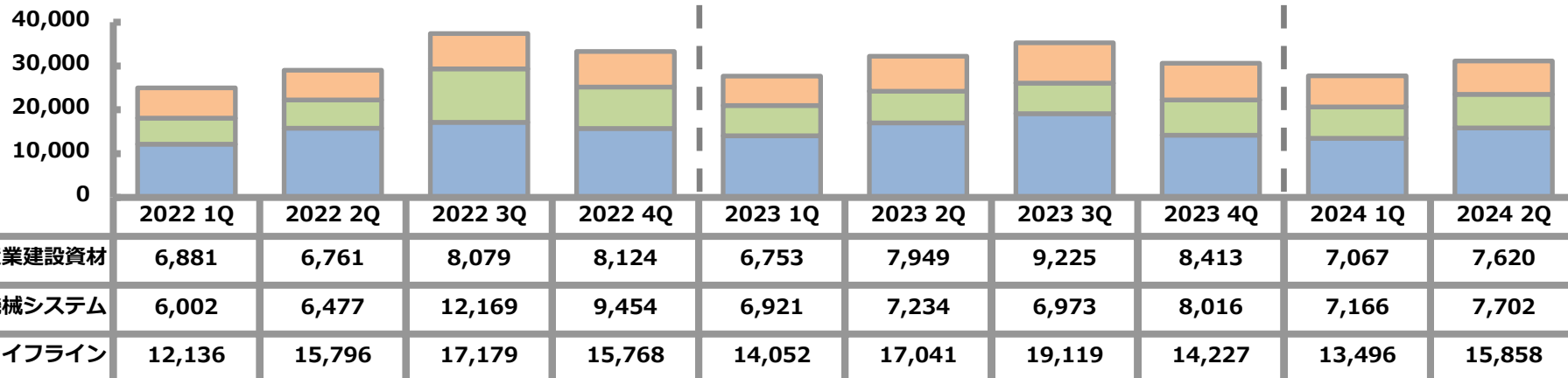
ライフラインセグメント		機械システムセグメント		産業建設資材セグメント	
パイプシステム	バルブシステム	機械システム	素形材 E N G	建材	化成品
水道用ダクタイル鉄管	水道用・産業用バルブ	鍛造プレス、混練機	耐熱・耐摩耗鋳物 破砕機	空調用ダクト等の 建築資材	検査路等の FRP(M)製品
 	 	 	 	 	 

参考資料 8

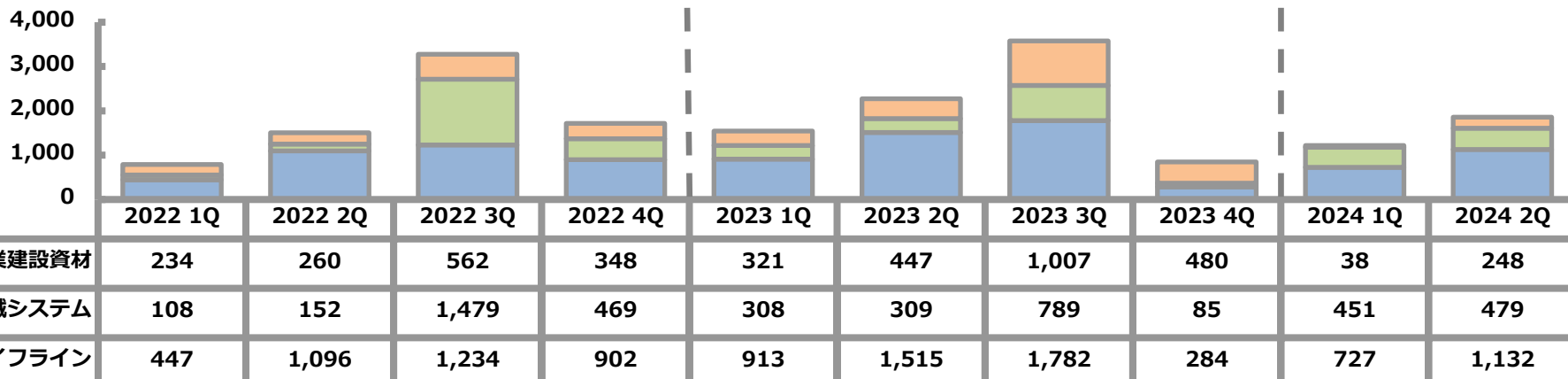
セグメント別 四半期業績推移

売上高

(単位：百万円)



営業利益

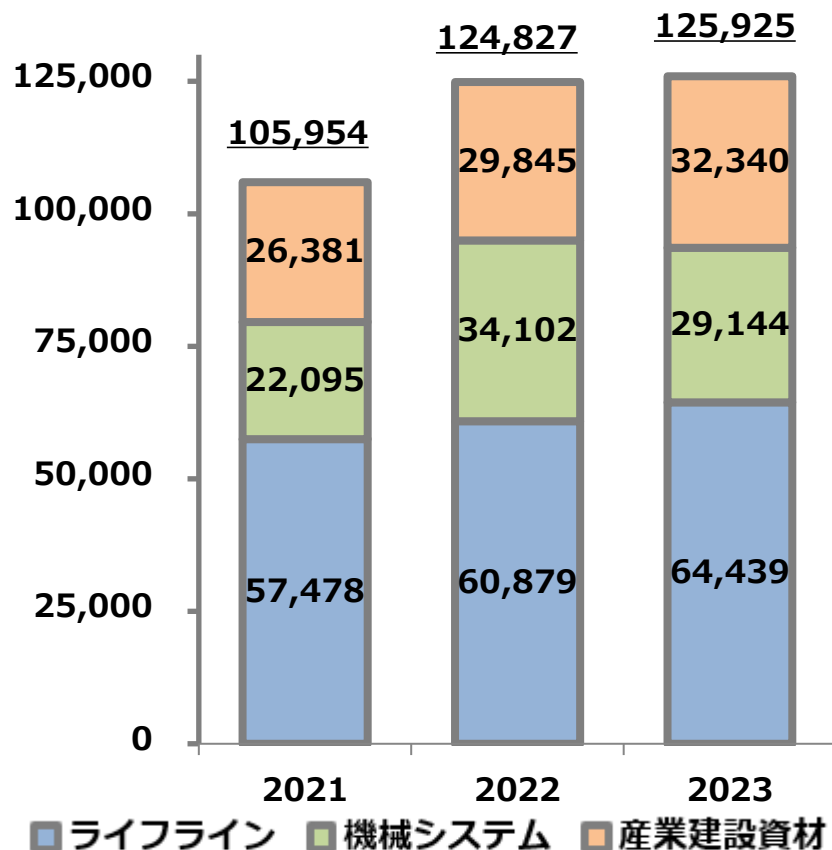


※営業利益合計額は調整額を含んでいるため、セグメント利益の合算値とは合致しません。

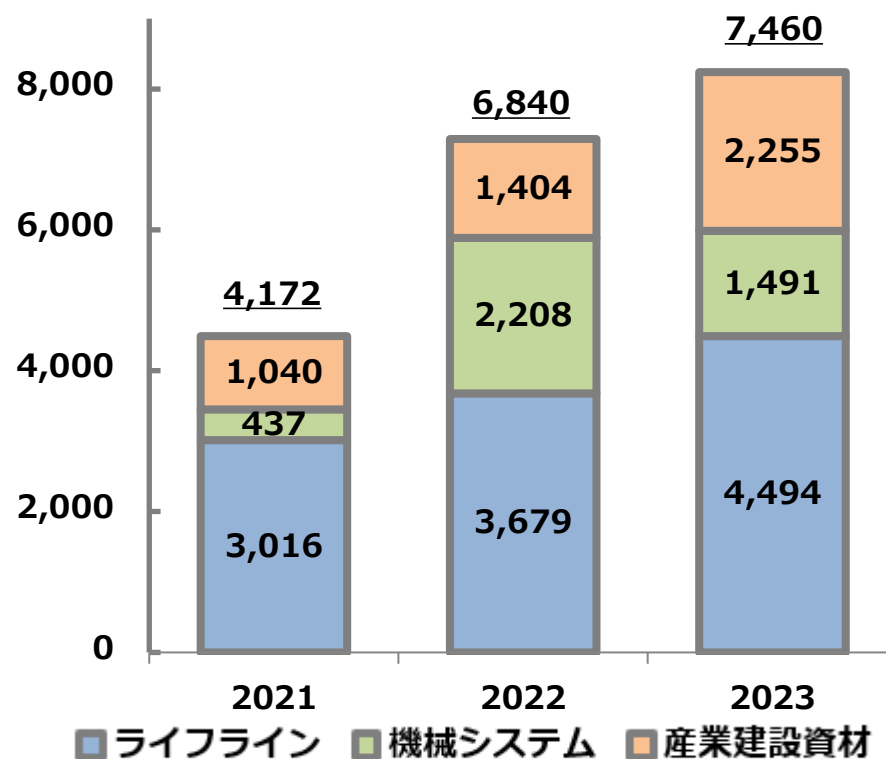
参考資料 9 セグメント別 年度業績推移

(単位：百万円)

売上高



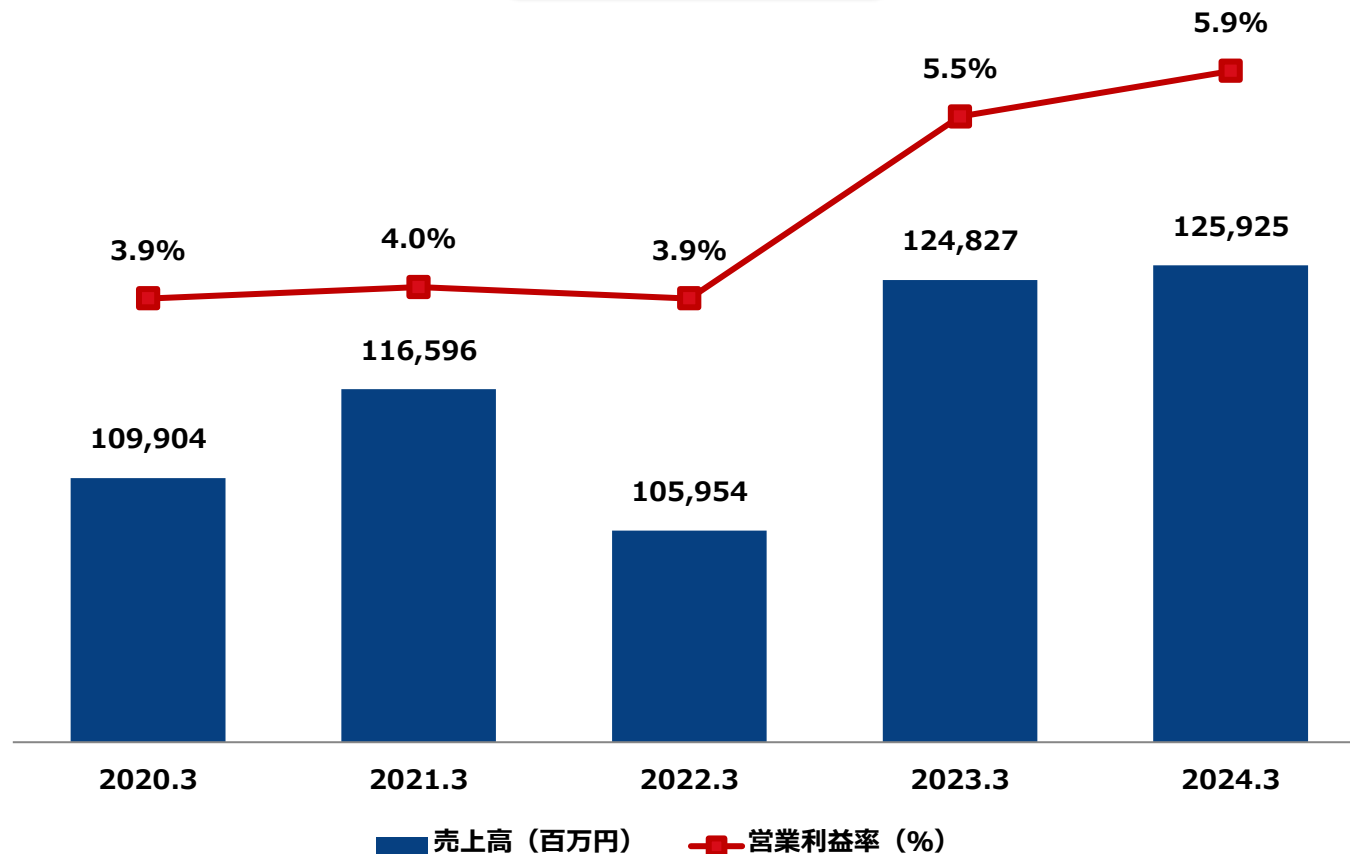
営業利益



※営業利益合計額は調整額を含んでいるため、セグメント利益の合算値とは合致しません。

参考資料 10 売上・営業利益率推移（連結）

連結



資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。

また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

問い合わせ先
株式会社栗本鐵工所
総合企画室 IR・SR部
TEL:06-6538-7719
E-mail : ir@kurimoto.co.jp
HPアドレス : <https://www.kurimoto.co.jp>

KURIMOTO